



女川港に面して観光の拠点「マリナル女川」があります。向かって右側の建物が見学施設「シーバル」、左側の建物がおさかな市場「シーバル」です。

宮城県牡鹿郡女川町

ひとが育ち、町も成長する「女川町」

昭和四十二年四月、宮城県から「女川町が原子力発電所立地の適地である」との発表が行われました。町は原子力発電とい

**エネルギー政策に貢献
魅力ある町を次世代へ
引き継ぐ**

昭和四十二年四月、宮城県から「女川町が原子力発電所立地の適地である」との発表が行われました。町は原子力発電とい

暖流と寒流がぶつかる金華山沖の漁場に恵まれ、全国屈指のサンマ水揚げを誇っています。しかしそのピークは、昭和二十五年から四十年代初頭までの捕鯨・遠洋漁業の時代で、町内は大規模な水産加工場の活気に満ちていました。その後、国際的な捕鯨規制や二百㏊規制により、捕鯨や遠洋漁業は徐々に衰退し、昭和四十年代には財政状況も厳しくなりました。

水産業に支えられる同町は、暖流と寒流がぶつかる金華山沖の漁場に恵まれ、全国屈指のサンマ水揚げを誇っています。しかしそのピークは、昭和二十五年から四十年代初頭までの捕鯨・遠洋漁業の時代で、町内は大規模な水産加工場の活気に満ちていました。その後、国際的な捕鯨規制や二百㏊規制により、捕鯨や遠洋漁業は徐々に衰退し、昭和四十年代には財政状況も厳しくなりました。

**天然の良港を擁する
女川町**

女川町は人口約一万二千人で宮城県牡鹿半島の付け根に位置しています。東側は絶景のリアス式海岸が続く、水産基地の女川港があります。西側は石巻市、南側は牡鹿町、北側は雄勝町と接しています。

昭和五十九年、東北電力女川原子力発電所1号機、平成七年2号機、さらに本年一月、3号機が営業運転開始の運びとなりました。

水産業・観光を官民一体で振興

町では立地を契機として、町民から数多く出されていた要望に応えるため、各種設備を整備し、活気あるまちづくりを進め、住民の支持を得ています。また南三陸金華山国定公園内に位置するという恵まれた観光資源と、近海・養殖を主力に生まれ変わった水産業を発展させるため、全国にキャラバン隊を繰り出してPRを行ったり、水産観光施設の充実を進めています。

町では立地を契機として、町民から数多く出されていた要望に応えるため、各種設備を整備し、活気あるまちづくりを進め、住民の支持を得ています。また南三陸金華山国定公園内に位置するという恵まれた観光資源と、近海・養殖を主力に生まれ変わった水産業を発展させるため、全国にキャラバン隊を繰り出してPRを行ったり、水産観光施設の充実を進めています。

「未知のエネルギーながら、国の政策に協力することを真剣に議論しました。また、当時の財政力指数は、〇・三五前後で、町民に必要な施策を十分に実現できない状況にありました。「青年にとって魅力あるまちづくりには、財源確保が急務」との判断もあり、昭和四十二年九月、議会で「原子力発電所誘致決議」が行われました。

特集 電源地域のサクセス・ストーリー

宮城県 女川町

ひとが育ち、町も成長する「女川町」 1

自立したまちづくりを目指し、人材育成に注力

女川町企画課 木村利彦さん 2

首都圏にも知名度アップを進める地元水産物販売と観光の拠点「マリナル女川」

女川町商工観光課 柳沼利明さん 4

マリナル女川事業協同組合 阿部秀次さん 5

四国九州まで進出した女川のサンマ

(株)ヤマホン 山本晴雄さん 6

DATA PAL 女川町 7

まちづくりトピックス 8

People プランナー

異業種間ネットワークで知恵を出し合う

「女川自由句」 女川自由句 佐藤充さん 9

People サポートします 東北経済産業局 村上正美さん 11

Focus 政策・制度

「地域インターネット導入促進事業」 12

「地域イントラネット基盤施設整備事業」

福島県葛尾村「葛尾村マルチメディアビレッジ事業」

テレビ電話と高度情報通信ネットワークを活用したむらづくり 14

Energy square

気候変動枠組条約第7回締約国会議(COP7) 20

情報クリップ

謙信公のかちどき飯 上越観光コンベンション協会(新潟県上越市) 22

柚子を原料とした特産品開発 古座川ゆず平井婦人部(和歌山県古座川町) 23

皆さまのニーズに対応した「じまん市」の多彩なプログラム 24

大分県別府市で「電気のふるさと交流会2001」開催 / 福岡市で「日本全国ご当地味めぐり～電気のふるさとじまん市 福岡」開催 25

表紙イラスト・相原健二

「地域のひろば」は、電気のふるさとの「まちづくり」を応援する情報誌です。





女川町企画課長 木村 利彦さん

自立したまちづくりを目指し、人材育成に注力

女川町は、町民の生活環境の向上と産業育成に努力してきました。これからの町の発展は、町民が自ら取り組むことにより達成され、その意欲を向上させること、すなわち人材育成が不可欠と考えています。まちづくりの推進役である木村企画課長に伺いました。

三法交付金を町民が長年要望していた施設整備に活用

女川町のまちづくりの成果について教えてください。
木村課長 女川町は、水産業

を柱に栄えてきたところですから、捕鯨や遠洋漁業の衰退は死活問題で、昭和四〇年代の前半には、住民福祉などに必要だとわかっていても財政的に実施が困難な課題がたくさんありました。

発電所の誘致が決まった当時町民は「これまで要望していた施設がやっと実現する」と大きな期待を寄せましたので、町では、町民の要望が強い体育施設、町立病院、福祉施設などを議会でも十分に検討し、優先的に整備してきました。特に町立病院は、木村主税町長の時代に、町

民の熱心な署名活動もあって、二十年來の夢がやっと実現したものです。現在はある程度ハード整備が進んだ状態ですので、これからはソフトのことを主に考える段階に来ています。

町民の皆さんは、どのように評価していますか。

木村課長 町立病院については、以前は石巻の日赤病院や仙台に通院・入院しなければならなかったのが、町内で済むことになったわけです。通院や見舞いに要する本人・家族の時間・金銭的な負担は大幅に軽減されたと評価されています。また、町には島が二つあり、島の住民からは「港に面した高台に町立病院が見えることで安心して生活できる」と喜ばれています。医師の不足、診療時間などの事情により、赤字が続いています。町民の命を守るかけがえのない病院です。町民の総意で設置された施設ですから、経営努力を続けて期待に応えたいと考えています。

陸上競技場や総合体育館は、県内外の競技大会、高校や大学の合宿などにも利用されています。地元の旅館・商店の売上げにも大きく貢献しており、地域経済の活性化にも効果を発揮しています。

ントが効果的ですから「さんま収穫祭」などを開催しています。当時は町の誰も、競争の激しい観光水産業界で他の観光地から観光客を獲得し、地元水産物を販売する経験がなかったわけです。失敗もありましたが、みんなが「地元の水揚げした魚や加工品を大量直売して、利益を地元に取り戻したい」との思いで取り組みました。

「マリナル女川」は、展示施設と販売施設の二つに分かれていて、各々役割があります。ここ数年民間の若手有志にお願いし、展示施設の集客を増やすためのコンセプトづくりや運営方法など具体的なところまで検討してもらっています。この有志は「女川自由句（おながわじゅく）」という地元若手経営者のグループです。民間の視点を活かし、リピーターを増やし、しかも効率的な運営ができる仕組みが提案してもらえると期待しています。その成果を、議会ともよく調整して実現していくことが、私たち行政の大事な仕事です。

「人づくり」がまちの維持・発展の鍵

木村課長 これからの女川町の課題は、人口減少を食い止める

観光との一体化に地元水産業の生き残りをかける

産業振興は、どう進めましたか。

木村課長 町を支えているのは昔も今も水産業ですから、こちらを立て直さなければ、と真剣に検討しました。主力だった捕鯨や遠洋漁業が撤退した後には町に残ったのは、沿岸漁業と他港の漁船から水揚げされるサンマの出荷・加工業でした。地元沿岸漁業は、鮮魚を消費地に出荷すること、水揚げされた魚を地元で加工することによって利益を得るわけですが、魚価は長い年月にわたって低下の一途をたどり、採算がとれなくなってきました。議会でもこの問題は度々とりあげられ、養殖など新たな事業も開始されました。

しかし育てる漁業も魚価の全国的な低迷のため苦戦し、今でも厳しい状況が続いています。中でもギンザケ養殖は、かつて高値を誇り、生産高も全国一年間三千トでしたが、養殖技術が海外に移出され、近年では国内市場の七割以上が安い海外産に占められています。

そうした中で浮かび上がったアイデアが、観光と水産業を一

ることと、町を活性化する主役である町民の意識を変えていくこと、すなわち「人づくり」です。牡鹿半島は、県内でも人口減少率の高い地域で、地形的にも工場等を誘致するのが困難です。まずは交流人口を増やし、町に不足しているものを取り入れ活性化したいと考えています。その意味でも、観光と水産業とともに発展させなければなりません。

また、町民の意識を変えていくこと、すなわち「人づくり」が町を維持し、発展を実現していくと思います。町の財政的な余裕はいつまでも続きません。社会変化は、少し前の十年分が、今は良くも悪くも一年で進んでしまいます。これに対応できるのは、町民一人一人の創意しかないと考えます。まちづくりを何でも行政の仕事だと考えていると、将来、町民の税負担が増す一方ですから、余裕のある現在から、町民自らまちづくりの事業を行うことが大切です。

「女川自由句」のような、リーダーの育成も一つでしょうし、町民全員が意識的にまちづくりに参加するようになっていただくことも大切な人づくりです。「人づくり」を反映した町民主体の事業について教えてください。

木村課長 今年で四回目になりますが、毎年十二月に町内有志が駅前広場をイルミネーションで飾るイベント、スターダストページェント2001海ほたるがあります。これは町立病院のクリスマスツリーの飾り付けから始まった活動で、今日では駅前広場を飾るまでに成長しました。当初から行政に頼らず、運営から資金の確保まですべて住民が企業とともにを行い、若い人たちの参加も増えています。オープニングにはサンタクロースも登場して子供に手作りのプレゼントを配布するなど、町を自分たちの手で明るく楽しくしたいとの思いが発揮されています。

さらに昨年度一年間をかけて、今年度から十年間のまちづくりを定める第四次長期発展計画の策定を行いました。その際、計画全体の三分の一の部分に町民代表の委員が検討した結果が反映されました。女川には、行政・議会とも町民とともに町を語り合う良い伝統がありますので、この伝統を大切に育てたいと思っています。

木村課長 これからの女川町の課題は、人口減少を食い止める

首都圏にも知名度アップを進める地元水産物販売と観光の拠点「マリネパール女川」

「マリネパール女川」は、平成六年に電源三法交付金を活用して建設されました。内容は展示施設と水産物販売施設の二本立てです。

全国的にも水産観光施設は観光地間の競争が激しく、日頃からイベントなどで賑わいを創出することや、商品の鮮度・豊富な品揃えを維持することが観光客獲得競争に生き残る鍵となります。施設の発展に日夜努力されているお二人に、運営のコツや苦労話などを伺いました。



「シーバル」
女川町商工観光課係長
柳沼利明さん

「マリネパール女川」は、平成六年に電源三法交付金を活用して建設されました。内容は展示施設と水産物販売施設の二本立てです。全国的にも水産観光施設は観光地間の競争が激しく、日頃からイベントなどで賑わいを創出することや、商品の鮮度・豊富な品揃えを維持することが観光客獲得競争に生き残る鍵となります。施設の発展に日夜努力されているお二人に、運営のコツや苦労話などを伺いました。



女川近海の中体験



「シーバル」
マリネパール女川事業協同組合
理事長 阿部秀次さん

ました。例えば漁船の一部を建物内に再現し、漁船乗り組みを仮想体験させるなど、漁業の町女川ならではの経験ができるような施設づくりが提案されています。

開業当時のことを教えてください。阿部理事長 平成六年に開業しましたが、初年度は約三十五万人のお客様を集めました。当初の計画では三十万人程度でしたので、予想を上回っています。お客様の数はその後も横這い、または微増で推移しています。現在物販十五店舗、飲食一店舗が出店していますが、開業以来テナントの撤退もありません。どのようなテナントが入ったのですか。阿部理事長 「シーバル」は、当初は「シーバル」の付帯施

「シーバル」は、平成六年に電源三法交付金を活用して建設されました。内容は展示施設と水産物販売施設の二本立てです。全国的にも水産観光施設は観光地間の競争が激しく、日頃からイベントなどで賑わいを創出することや、商品の鮮度・豊富な品揃えを維持することが観光客獲得競争に生き残る鍵となります。施設の発展に日夜努力されているお二人に、運営のコツや苦労話などを伺いました。

「シーバル」は、平成六年に電源三法交付金を活用して建設されました。内容は展示施設と水産物販売施設の二本立てです。全国的にも水産観光施設は観光地間の競争が激しく、日頃からイベントなどで賑わいを創出することや、商品の鮮度・豊富な品揃えを維持することが観光客獲得競争に生き残る鍵となります。施設の発展に日夜努力されているお二人に、運営のコツや苦労話などを伺いました。



おさかな市場の賑わい

「シーバル」は、平成六年に電源三法交付金を活用して建設されました。内容は展示施設と水産物販売施設の二本立てです。全国的にも水産観光施設は観光地間の競争が激しく、日頃からイベントなどで賑わいを創出することや、商品の鮮度・豊富な品揃えを維持することが観光客獲得競争に生き残る鍵となります。施設の発展に日夜努力されているお二人に、運営のコツや苦労話などを伺いました。

四国九州まで進出した 女川のサンマ



(株)ヤマホン代表取締役社長
山本晴雄さん
(株)ヤマホンホームページURL
<http://plaza14.mbn.or.jp/yamahon/>

サンマ漁船がなくて、なぜサンマが女川港に集まるのですか。山本「サンマ漁船が集まる最大の理由は「良いサンマは女川に揚れば高値がつく」という実績です。その信用で鮮度が良く型の良いサンマを漁獲した漁船は、競って女川港を目指すのです。」

陸と海で鮮度をこだわる

なぜ女川で高値がつくのですか。山本社長「昭和六十年代初頭、量販店への納入を考え、サンマ自動選別機の導入や保冷温度の低温化を図り、出荷時間の短縮と鮮度維持を進めました。この取り組みは町内にも普及し、女川町全体の鮮度管理が向上しました。」

海水シャーベットで鮮度を維持 四国九州へ市場開拓

サンマを全国に販売するために、女川独自の工夫があるのですか。山本社長「女川のサンマは、水揚げしたその日にトラックで出荷し、翌日中に東京や大阪の卸売市場に届けています。」

昨年度は四国、今年度は九州の卸売市場に営業に出かけました。両市場ともサンマは供給過剰でしたが、いざ出荷してみると鮮度の良さが評判になり、最も売れるサンマになりました。

四年前には海水をシャーベット状の氷にする製氷機を日本で最初に採用し、真水の氷よりも保冷温度を三度低下させ、鮮度維持を強化しました。女川のサンマを九州の卸売市場に発送すると翌々日になります。この海水氷によって女川のサンマが九州でも刺身で美味しく食べられるようになりました。

先手を打って競争に勝つ

女川町の水産業の発展のために、どうすればよいでしょうか。山本社長「現在、水揚げ量の減少や、輸入の増加で水産業界は大変厳しい状況です。サンマも数年前には不漁が続き、苦しい時期がありました。サンマの出荷時期は八月末から十一月までなので、当社では「生サンマのすり身」や「サンマの丸干し」などを製造し、年間の仕事を確保しています。しかし、鮮度にこだわりサンマの刺身が評価されたように、加工品も味にこだわりを持たないと消費者に受け入れてもらえません。ライバルの先手を打って「また食べたい」と感じる商品を提供できなければ、生き残れないのです。」

女川町卸売市場は、鮮度維持に有効な最新の冷蔵・冷水設備に切替えている最中です。鮮度で国内トップを維持するため、女川では先手を打っているのです。

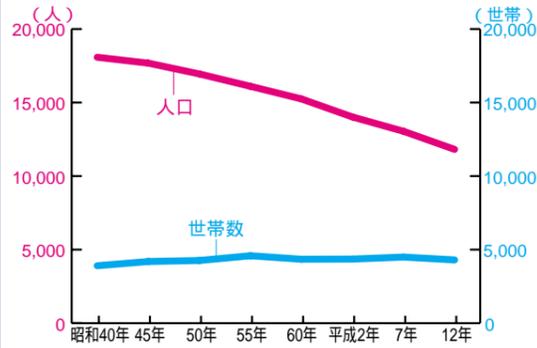
サンマ漁船をもたない女川港

今年度の水揚げはどうか。山本社長「今年度は女川港に三万八千トンの水揚げがあり、水揚げ量は全国第三位、水揚げ金額は三十七億円で第二位でした。しかし女川港の本当の「凄さ」は、サンマ漁船が一隻もないのに全国有数の水揚げ港になっていることです。」

女川町

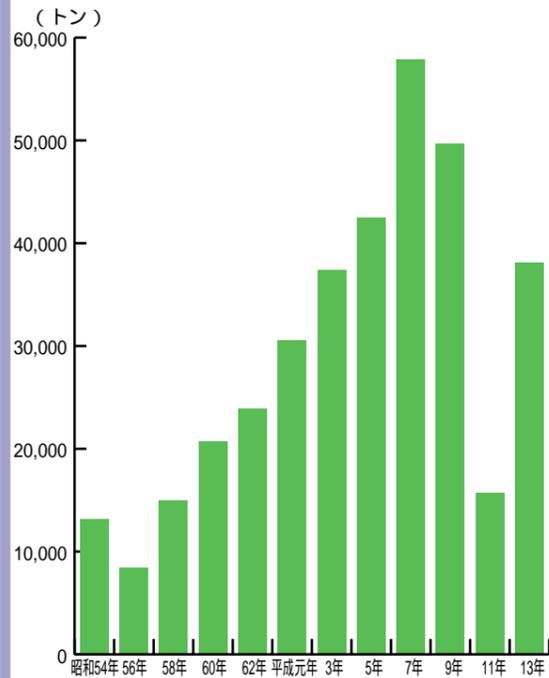
問い合わせ先/女川町企画課 電話0225-54-3131
マリナル女川ホームページURL <http://www.marinepal.com>

人口と世帯数の推移



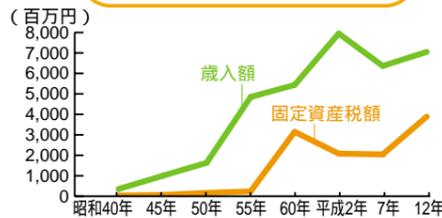
出典：国勢調査データより

女川魚市場サンマ水揚げ高の推移



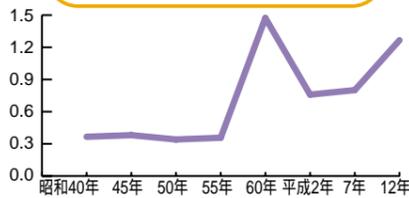
出典：宮城県統計データより

一般会計の推移



出典：女川町データより

財政力指数の推移



出典：女川町データより

女川町の原子力の歩み小史

- 昭和45年 1号機電源開発調整審議会承認(第52回)
- 昭和46年 1号機着工
- 昭和59年 1号機営業運転開始
- 昭和62年 2号機電源開発調整審議会承認(第106回)
- 平成元年 2号機着工
- 平成7年 2号機営業運転開始
- 平成6年 3号機電源開発調整審議会承認(第126回)
- 平成8年 3号機着工
- 平成14年 3号機営業運転開始

発電所概要

女川原子力発電所(東北電力)
所在地/宮城県牡鹿郡女川町

- 1号機 出力/52.4万キロワット(原子力) 運転開始/昭和59年6月
- 2号機 出力/82.5万キロワット(原子力) 運転開始/平成7年7月
- 3号機 出力/82.5万キロワット(原子力) 運転開始/平成14年1月

海ほたる



イルミネーションが点灯した女川駅前広場。実行委員会では毎年新しいデザインに挑戦し、ライティングに趣向を凝らしています。

平成十三年十二月九日、今年で四回目となる「スターダストペーシエント2001海ほたる」の点灯式が女川駅前広場で開催されました。

このイベントの特長は、運営・資金面とも住民ボランティアと地元企業が主役となっており、町民が自主的にクリスマスツリーの飾り付けをしたことに始まり、「より多くの人たちに楽しんでほしい」「自分たちの町を明るくしたい」という思いが込められています。

くして冬の港町を元気つけた」と考えた有志が、場所を駅前広場に移して、手づくりのイベントに成長させました。

駅前広場を囲む木々に、一万六千個のイルミネーションが取り付けられ、駅前広場は一月三日までの約一カ月間にわたり、クリスマスツリーのような華やかさを生み出します。

まちづくり
トピックス

運営組織は、約十五名の実行委員会が中心で、運営資金もすべて町民・地元企業からの募金でまかなわれています。実行委員会の代表世話人遠藤さんは次のように語っています。

無理にイベントを大きくしないこと
有志が楽しく運営できること
若者に引き継いでもらうこと

女川駅に降り立つ人を、町民の暖かい善意による手づくりのイルミネーションが迎えてくれます。

テレメディシン（遠隔診療）

平成九年に、町民が長年待ち望んでいた女川町立病院が誕生しました。この施設は、内科・外科・整形外科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科を備えています。町民の急な疾病に対する安心感はとても大きなものになったと喜ばれています。

さらにこの病院の大きな特長は、東北大学医学部付属病院と光ファイバーで結んだ遠隔診療です。この遠隔診療は、町立病院で判断が難しい症状を中心に、町立病院から病棟の画像や放射線画像を大学病院に送ることによって、大学病院の専門医が即時に診断できる仕組みです。町立病院が来院者に対して実施したアンケート調査によれば「遠く大学の医師の診断が反映されて一層安心」という結果が得られ、遠隔診療は町民からも好評です。



病床数100床を備え、救急病院にも指定されている女川町立病院。

異業種間ネットワークで
知恵を出し合う
「女川自由句」おながわじゅく



女川自由句のメンバーが制作したCD

女川町の若手経営者が行政に協力して、元気な活動を展開しています。現在の主な活動内容は「マリニバル女川シーパル」（見学施設）のリニューアルの計画づくりです。町は民間の若い発想力を導入したいと考え、若手経営者に参加を呼びかけました。これに応えた九名が「女川自由句」を組織しました。座長で、水産会社の経営者でもある佐藤充さんに、まちづくりへの思いや活動を通じての人材育成についてお話を伺いました。

「女川自由句」という名称にはどのような意味があるのですか。

佐藤座長 平成十二年度に「女川のための、人づくりの塾」という意味で、「女川塾」と命名された異業種交流会がスタートしました。主な検討テーマは「シーパル」のリニューアルについてですが、「自由な立場から自由にものを言つ」会であることから、平成十三年度から「自由句（じゅく）」にしました。「女川自由句」のメンバー九名は、若手経営者といっても平均

年齢は四十代です。決して若くはありませんが、年輩の方々が元気な土地柄ですので、「女川自由句」は若手が意見を言える貴重な機会になっています。観光施設のリニューアルを検討していく過程で、いろいろな年齢層の目線を考えるなど、メンバーが得るものは大きいと思います。テーマが変わっても活動は続けていきたいと思っています。

佐藤座長 「シーパル」のおさかな市場には固定客がつき健闘していますが、それに比べ「シーパル」は開設当初に比べて入場者が減少しています。小規模な映像施設や漁具の展示室などは、オープン当初のままですが、一度見れば十分な内容です。リピート客を集められる展示内容ではありません。

「シーパル」をどのように見直すお考えですか。

佐藤座長 現在検討中ですが、「せっかくなら来てくれた人に見せたいものは何か、ここに

陳腐化の速い展示物主体よりも、交流・癒しの施設づくりを提案

開業以来、施設自体に入館することが有料となっていますが、まずこれを無料にして入館者を増やしたいと思っています。入館後に映像施設やゲームを楽しむ場合は有料にしても良いと思います。個人的には、建物本体の大きな仕掛けや展示物の改修工事にあまり費用をかけてはいけなと思っています。展示物は陳腐化が速く、来場者の興味をつなぎ止められる期間は限られているからです。

しかないもの考える」「私たち住民にとって楽しい施設でなければ、観光客も集まらない」「展示物で観光客を集めることは難しい時代なので、心地よさや人とのふれあいで勝負したい」という顧客志向の視点で検討しています。

大金をつぎ込んで展示物をちよくちよく換えるようなことは、よその集客施設でやってもらえば良いことだと思います。それよりも人とのふれあいや、人を癒す仕掛けを館内に充実させることの方が重要ではないかと考えています。

来年度以降も検討を行うのですか。

佐藤座長 現在、リニューアル

ル計画の内容をつめていますが、その次の段階では来場者のもてなしを含めた運営計画も検討する必要があります。「女川自由句」は、全くの白紙の段階からリニューアル計画をつくっています。今までの行政では、計画ありきの検討会が一般的でしたが、今回は問題の洗い出しから開始していますので、検討時間がかかっています。

議会・行政・女川自由句がみな町民の目線で話し合う

この異業種交流会は、人づくりに役立つのではないですか。佐藤座長 現在の私たちの活動は、民間のアイデアが検討初期から生かされる初めての試みで、大変画期的です。

いまだ私たちは、まちづくりを行政まかせにしています。しかし、これからは女川に住んでいる人自身が自らのことと考へなくてはなりません。「女川自由句」のような民間の意見をまちづくりに反映させる機会を広げていけば、人づくりに役立つとともに、町は活性化してくると思います。

今回の検討結果は、町のどの

ような位置付けとなるのですか。

佐藤座長 「女川自由句」の位置付けが問題でした。というのはこの団体は条例などの位置付けがない任意団体だからです。つまり、「無責任な立場で、責任ある意見を述べている」状況なのです。「女川自由句」の提案が、実際にどのように扱われるのかわからない状態でしたが、その一方で検討が進行し、「女川自由句」の検討内容が新聞記事になったこともあって、議員の方々もこちらの動向が気になってきたようです。

議会からの反応はいかがですか。佐藤座長 女川町には、役員職員も議員もみんなが一人の町民として話し合える雰囲気があります。議会軽視ではないかと言った反応は特にありません。

とはいえ、私たちの活動が注目されるようになったため、町では「女川自由句」と議会の産業建設常任委員会との意見交換の機会を設けました。私たちの検討内容は議員に十分伝えることができました。今後、われわれのアイデアや意気込みは議員を通じて議会に反映してもらえ、るわけですから、私たちメンバーのまちづくりに対する熱意も

さらに高まりました。

自然体でまちづくりを語り合いたい

町民主体のまちづくりに、どんな支援が必要ですか。

佐藤座長 まず町民は一層主体的にまちづくりを考える必要があります。支援というより、取り組み方の話ですが、まちづくりというものを肩肘張ったものにしてはいけないと思います。私は会議の席上で話す内容よりも、草野球やサッカーが終わって着替えをしているときに、仲間内で語り合うまちづくりの思いの方が、自然でアイデアに富んでいると思っています。ふと力を抜いたときに自然にこの町の将来を語り合つことができる、そんな雰囲気育てていきたいと思っています。

支援という点では、アイデアを持つている人が、より実践に近づくことができるような、ソフト的な面を支援する制度が一般化していくと良いと思います。女川の場合は電源地域に対する恩恵を受け、いろいろな支援制度を活用しています。原子力発電所については、本業の水産業に悪い影響が出たことはないし、

二十一世紀最初の記念すべき原子力発電所 女川3号機

平成十四年一月三十日、女川原子力発電所3号機（出力八十二・五万キロワット）が営業運転を開始し、二十一世紀国内最初の原子力発電所が誕生しました。原子力に対する世論が厳しく新規事業計画がほとんど進まない中、柏崎・刈羽7号機、玄海4号機以来五年ぶりの営業運転開始となりました。昭和四十六年の1号機着手以来、三十年以上の歳月を重ねて、全号機竣工となりました。地元

女川町及び牡鹿町の皆さま方ならびに、宮城県ご当局的理解とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

この3号機は、マーク改良型を採用しております。長年の運転実績に基づき改良を重ねた原子炉ですが、電気事業者は最新最良かつ安心できる設備として完成に至らせたと推察しております。

また工事関係者は、原子力に対する信頼回復が強く期待される中、些細な工事内容までも衆目にさらされ、緊張の連続となつたわけですが、かえって良い意味での緊張は良品完成につな

全号機完成のご協力に感謝 女川町のまちづくりを支援します



東北経済産業局 電力・ガス事業部長

村上 正美さん

女川町は水産業が基幹産業であり、電源三法交付金を活用して水産観光センター「マリンパル女川」を整備し、水産業と観光振興に積極的に取り組まれて

女川町のさらなる発展を支援

女川町は水産業が基幹産業であり、電源三法交付金を活用して水産観光センター「マリンパル女川」を整備し、水産業と観光振興に積極的に取り組まれて

東北経済産業局管内の需要・発電電力量の状況

国民の期待を裏切らないよう、今後とも保守点検を含め最大限の努力を希望しています。

まず電力需要ですが、東北電力の平成十二年度の需要電力量は、夏の猛暑と厳冬により、対前年度比三・八％増の七百四十五億キロワット時でした。しかし、平成十三年度上期の需要電力量は、冷夏と景気低迷の影響により、三百五十七億キロワット時と対前年度比二・五％減少しております。こうした中ですが、女川原子力発電所の発電電力量は、平成十二年度百七億キロワット時で、東北電力全体の十四・三％を担っております。

また管内の東京電力福島第一、福島第二、および柏崎・刈羽原子力発電所は首都圏への電力供給の重要な役割を担っています。

親しみやすい広報活動を展開

東北経済産業局では、平成十三年十一月十日、十一日に仙台市内で、電源市町村のPRと都市部住民との交流を図る「ワクワク!! エネルギーふれあいタウン2001」を原子力広報の一環として開催しました。今年度初めて、ペンをモデルとした「ペンタくん」というキャラクターを登場させて、子供たちにも親しみやすい情報提供、広報活動に努めております。

今後、電源地域の振興をさらに支援し、原子力発電所ができて、住民の皆さまが良かったと感じていただけるよう、努力して参りたいと思っています。